

ヒメサナエ

Sinogomphus flavolimbatus Oguma

トンボ目サナエトンボ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー なし

選定理由

成虫は過去に小松市大杉上町の大杉谷川で2頭採集されたのみである。近年、南加賀の3河川からのみ見つかったているが、局地的で個体数が少ない。

形態

腹長31~34mm、後翅長24~28mmの小型でやや細いサナエ。胸側に1本の太い黒条がありオスの尾部上付器は角状で白い。

国内分布

日本特産種で、本州、四国、九州に分布するが、産地は比較的少ない。北陸では福井県の南川の本流や支流にかなり生息する。

県内分布

幼虫調査により小松市大杉上町の大杉谷川、丸山町の大日川、加賀市山中温泉九谷町の大聖寺川で生息が確認されているが、大日川や大聖寺川では少ない。

生態

幼虫は、低山の溪流の比較的上流部にある砂礫質の水底で育ち、岸辺の石などの上で羽化する。幼虫が流下移動すると言われるが、本県ではいずれもダム湖より上流から得られている。未熟期には林間で摂食するが、成熟虫は7月から8月に溪畔で活動する。飛翔力は強くない。

生息地の条件

汚染のない砂礫底の中流域で、水面に出た石や岸辺の岩石、ヨシなどが存在すること、近くには摂食空間としての疎林があることが重要である。生息河川は比較的大きく、水量が適当に維持され、かつ停滞しないことも条件となる。

生存の危機

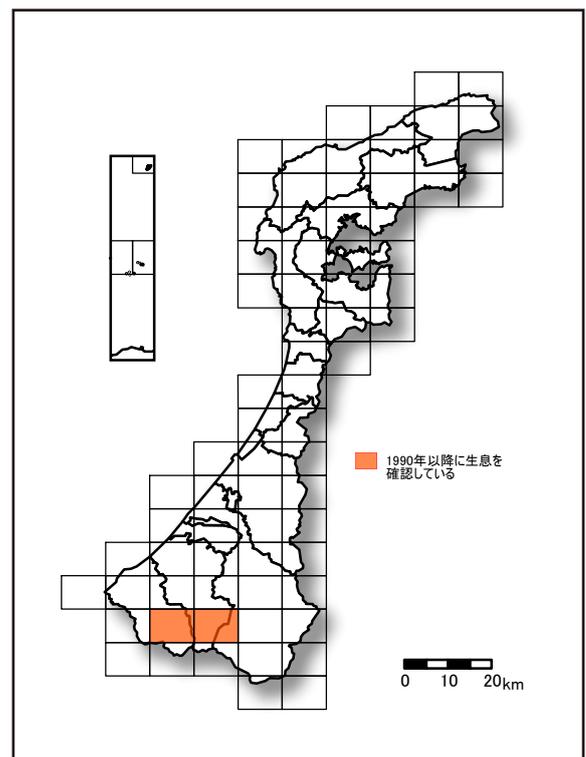
幼虫は生息環境の選択性が強く、源流下流からダム湖までの、比較的狭い範囲だけから幼虫が確認されているので、ダム工事、道路建設、川床ならし等で礫や抽水植物が除去されることなどで生息環境が損なわれると影響が大きい。(A)

参考文献

中山佐一郎 1999. 小松のトンボ. 88pp. (自刊).
武藤 明 1999. 石川・福井のトンボ資料 (1999). Tombo, 42: 64.
浅地哲也 2004. ヒメサナエの幼虫の記録. とっくりばち, (71): 11.



標本提供者: 武藤明



県内の分布